

こころをつなぐ まちづくり

人権シリーズ vol.156



知るじつからでも
始めないと...

最近の新聞に載った、気になった話から。自民党のある「特命委員会」は、LGBTなどの性的少数者への理解を増進する法案を今の国会に出すという。私の知る限りでは、この3年間に人権法案は4本目になるのではないか。「障害者差別解消法」、「ヘイトスピーチ解消法」、「部落差別解消法」に続いてだ。これらの法案の特徴は、自民党が積極的な動きをして成立させていることだ。このような法案は野党が要求し、与党が受け入れ、法ができる。そのような流れだったように思うが、最近は様変わりだ。2020年のオリンピック、パラリンピックの地ならしかと勘繰りたくもなる。

さて、そのLGBTも随分と社会的な認知を得てきたように感じるが、再度おさらいをしておきたい。「Lは「レズビアン」で女性を好きになる女性のこと、Gは「ゲイ」で男性を好きになる男性のこと、Bは「バイセクシャル」で男性も女性も好きになる人のこと、Tは「トランスジェンダー」で性同一性

障害など心と体の性が一致しない人のこと、を言う。

「そんな人が本当にいるの？」とか「私たちの周りにもいるの？」と思う方がいるかも知れないが、ある調査会社は国民の8.9%、11人に1人というみなさんの回りにもLGBTの方がいることを認識しなければならぬ数字だろう。誤った認識は差別を伴うことにもなる。

では、数字的にも相当数いると思われるこれらの方が、“不存在”に見えるのは何故か、という疑問が湧いてくる。言わずもがなだがカミングアウト（他人に秘密にしていたことを公表すること）することで本人が不利益（差別）を被るおそれがあるから、また、カミングアウトで生きづらくなるからだろう。このことでもわかるように、差別は差別される側の問題ではなく、差別する側の問題であることの証左であろう。

性的少数者ら当事者の取り組みが進む一方で、3月初めのメディアで人権問題に対する大分県の対応を心強く感じた。それは、県の各種手続きに必要な申請書などの約3割から「性別記載欄」を削除すると発表したことだ。3割の多寡は別にして、知事は「性的

少数者を含む全ての人の多様な価値観や生き方が認められ、（中略）当事者に寄り添った取り組みを加速させていく」と答えている。「当事者に寄り添った」は、人権問題解決の基本だと思っている。

人権の担当者になって早や6年目。いろいろな人権問題が日本に現存することは理解しているつもりである。では、知事の言う「当事者に寄り添った」実践はできているだろうか、と自問する。

そのような中、上記のLGBTのTに関するノンフィクション小説「総務部長はトランスジェンダー」を読んだ。性的指向の違い、どの性別に惹かれるかなんて、学校で教わるものでもなければ、強制されて決められるものでもない。各々の心がときめいた対象が、たまたまどちらかの性別に属していたというだけの話—とのこと。当事者はそんな思いなのだ。知らなければ「寄り添える」わけがない。知らないことはまだまだ多くあることをまた学んだ。まず、知ることからでも始めないと、何も始まらない。

（文責：教育委員会安岐分室 本多）

市長室から
こんにちは

『一期一会』

市長日記

96

国東市長 三河明史



東京国際空港を朝8時に飛び立った飛行機の窓から見る景色は、朝日を浴びて白い雲がポカリポカリと浮かび、のどかな春の景色のようです。

しかしここは、高度1万フィートの遙か高空。その春のような景色とは裏腹にマイナス数十度の極寒の世界に違いありません。

飛行機の窓から見下ろす地上は、谷筋に沿って小さい家々が建ち並び、「ああ、こんな山の奥にまで人々が住んでいるのだなあ」とか大きな港湾の岸壁に、煙を噴き上げる幾つもの煙突が見えてくると「ここはどこだろうか。名古屋港かな、それとも三重県の四日市だろうか」などと考えるのも楽しいものです。しかし、上から見るだけでは、中々当たらないのです。

通常、上京の際は企業訪問等の為、戻りの便は最終便が多く、景色など見えないのですが、今日は色々と戻ってからの仕事を立て込んでいたので、朝の飛行機となったのです。

ところで、その昔は出張も列車も列車があたりまえでした。急行高千穂、特急富士といった夜行列車や、特急みどりなどを使って旅行や出張に行ったものです。

私は、飛行機よりも夜行列車の方が好きです。夜行列車の窓からは、高空を飛ぶ飛行機では見えにくい人々の営みが近くに見えるように思うからです。列車の窓際に腰掛けて、ぼんやりと窓外を見ていると「ああ、窓に明かりが点いている。家族での晩ご飯中かな」とか「一人暮らしなのだろうか」と人々の営みを間近に感じるのです。あるいは列車が駅を通過するときホームのベンチにぼんやりと座っている人や踏切を通過するときに、自転車を押して列車の通過を待っている人と目が合ったように感じることもあるのです。

「ああ、この人とは二度と会うことはないのだな」と何ともいえない感慨に襲われることがあるのです。

「一期一会」と言う言葉がありますが、正に夜行列車は、それを心で感じるのです。

市政バスツアーに参加しませんか?

市民の皆さんに、市政や当市を支える産業に対する理解を深めていただくため、市の施設や市内企業・事業所等を見学する市政バスを次のとおり運行します。

6月コース 6月4日(火)

9:20 安岐支所 → 武蔵支所 → 本庁 → 国東製炭 → サポートセンターかもめ(昼食含む) → 馬ノ瀬 → クリーンセンター → 本庁 → 武蔵支所 → 15:50 安岐支所

7月コース 7月4日(木)

9:20 国見支所 → 本庁 → 国東市農業団地 → 武蔵東部浄化センター → 美国(昼食) → アイリスソーコー → 小城展望公園 → 本庁 → 15:50 国見支所

※コースは変更する場合があります

- 参加対象 市内に在住されている方
- 参加料 無料(ただし、昼食代は実費)
- 定員 各18名(申し込み先着順)
- 申し込み方法 広報室へお電話(0978-72-5008)もしくは電子メール(kouhou@city.kunisaki.lg.jp)にて
①住所②氏名③年齢④電話番号(日中連絡の取れるもの)
⑤コース名⑥乗車場所を記載してお申し込みください
- 締め切り 5月20日(月)
- その他 歩きやすい履物でご参加ください

